

地域医療の現場から

海と教会と 温かい人々とともに

国保天草市立河浦病院
内科医師 前原耕介



病院全景

🏥 病院の概要

- 設立年月：昭和 29 年 11 月
- 許可病床数：99 床（一般病床 39 床・療養病床 60 床）
- 入院基本料：13 対 1
- 職員数：97 人
（再掲） 医師 4 人 看護師 46 人
（平成 26 年 3 月 1 日現在）

当院は風光明媚（めいび）な天草下島の中央に位置する河浦町地域にあり、河浦町を中心に天草町やその周辺の約 7,000 人の人口を有する地域の基幹病院として、皆さまの健康増進に積極的に関わらせていただいています。他病院と連携しつつ、主に初期医療、亜急性期医療、回復期医療、在宅医療及び救急医療を担っております。

地域のニーズの変化とともに 現在の姿へ

当院は昭和 22 年に旧一町田村施設として診療所を開設し、昭和 29 年に町村合併し国民健康保険河浦町立病院としてスタートしました。その後、結核病棟の併設なども経て、平成 15 年には病床数を現在と同じく一般 39 床、療養 60 床に変更しております。そして、平成 18 年には市町合併により現在の国民健康保険天草市立河浦病院と改称しております。

現在、内科・外科・小児科・整形外科及びリハビリテーション科を標榜しており、常勤医師 4 人とスタッフで地域の皆さまのお役に立てるよう日々奮闘しております。

キリタン文化が 静かに深く息づく場所

天草といいますと、まぶしい太陽と海岸線と小さな島々という印象を抱きますが、当院の立地する河浦町はそのようなイメージを良い意味で覆す、深い文化に育まれた土地です。熊本市から車で2時間走ると天草市中心部である本渡に着きますが、さらに下島を縦断する国道266号線に乗り、深く険しい山道を南へ30分進むと、羊角湾のまぶしい水面とともに河浦病院が現れます。湾沿いを車で走ると、古くからの典型的な漁村の中に天主堂が現れ、ゴシック様式の美しい天主堂はなぜか周囲の日本家屋と調和します。それが世界遺産候補にもなっている崎津天主堂（崎津教会）ですが、やはり地理的要因からか観光客でごった返すような雰囲気はなく、むしろ住民の方々の日常の一部として静かにとけ込んでいます。

風の音と波の音以外に音を探そうにも見つかからないほど静かな天主堂の入り口では、地域のおばあさんたちが雑談をしながら干物を干し、猫が天主堂の庭と家屋を行き来し、高台からはたくさんの十字架の墓石が湾内を見下ろします。中世にヨーロッパからたどり着いたキリスト教文化が静かに深く河浦に息づいていることをおのずと感じさせてくれます。現在300人ほどのクリスチャンの方がいらっしゃるのですが、やはり少子化・高齢化・過疎化の影響で少しずつその人数も減少しつつあります。



朝もやの崎津教会

地域の人々の生活と密着した医療

このような集落の方々も、もちろん当院かかりつけであることが多いですが、当院での日々の診療が特殊ということは決して

なく、当院外来は地域の皆さまの長期的健康管理の中心にあり、私の外来では高血圧症、脂質異常症、糖尿病など生活習慣病の指導・内服管理などを中心に行っています。

海の人々の個性でしょうか、豪放な方が多い印象であり、日々の外来でも待ち合いの椅子でも笑い声は絶えません。しかしながら生活習慣病の管理としては、内服薬の重要性や食事で気をつけることなど、ご理解いただいてもなかなか実行に移せない方も時にいらっしゃるのが悩ましいところです。これらの必要性をよりご理解いただけるための方法を試行錯誤しております。

現在の当院を取り巻く環境

また他地域と同様に、地域の過疎化・高齢化・老老介護などの問題が山積しています。特に上記のように熊本市内から3時間近くかかる地理的要素は、他地域以上に医療・介護の方針決定を困難にさせているかもしれません。

療養病棟は常に満床近く、一般病棟も時に満床になるなど、地域から当院へのニーズは高く、慢性的医師不足を体力で補いながら役割をなんとか全うしています。また今年度からは、常勤医師4人、非常勤医師に加え、休日時間外には大学からの応援医師も駆けつけてくださっており、大変助かっています。

病気と人を診る

私は地域医療を担う総合臨床医を育成する自治医科大学を卒業しましたが、学生時代にはたくさんの先輩医師から地域医療の魅力・難しさを伝え聞いていました。その際、「地域に密着した医療は、患者さんを全人的に診ることに他ならない」と繰り返し教えていただきましたが、実際に自分が地域医療を実践する身となった現在も、常々その言葉が身に染みんでいます。

患者さんの人となり・考え方・家族背景・生きがいなど、地域医療では病気を診るだけでなく人を診ることが求められます。それは時に非常に悩ましいこともあります。地域医療の醍醐味（だいごみ）かもしれません。

最後に

河浦病院が面する羊角湾は東シナ海へ注ぎ込みますが、夕暮れには美しく水面が輝きます。数百年続く静かな漁村のキリスト教文化は高齢化とともに規模は小さくなっており、その行く末を案じずにはいられません。目の前の地域の皆さんの健康を、お一人お一人に対し全力で満たしていきたいと思っております。



研修医の西原先生とともに、
崎津教会前にて（右が筆者）